

# 農場基盤及び施設・設備の整備に関する調査

全国高等学校農場協会振興局

## 1 調査目的

国による学校農場の基盤整備並びに施設・設備の整備は、学校農場基盤整備事業の予算化が廃止となったことや、産業教育振興費国庫補助金の減額、地方財政の悪化等により予算の確保が困難となっている。そのような中すでに老朽化し更新を必要とする施設・設備も多くなってきている。

一方、農業教育においては、新学習指導要領に基づく新技術に対応した指導、安全な実験実習指導、環境に配慮した指導等、より魅力的で、効果的な指導が求められている。このため、農業高校における農場基盤整備及び施設・設備に関する予算確保は、重要な課題である。

このアンケートは、農場基盤整備の必要性及び施設・設備の整備状況を調査することにより、学校農場基盤及び施設・設備の整備を促進するため国への要望、及び各都道府県において活用できる資料とするためのものである。

## 2 対象

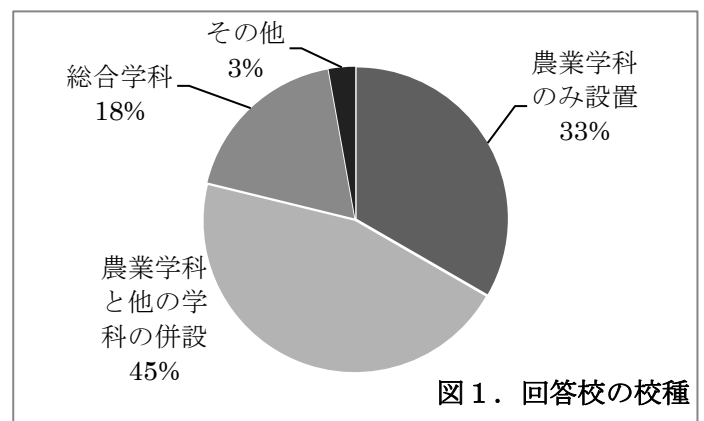
農業関係学科を設置している高等学校

## 3 アンケート結果

全国高等学校農場協会会員校 376 校中 355 校、94%の学校から回答を得た。

### I 校種

農業関係の学科を有する単独校は 33%、他学科の併設校は 45%、総合学科は 18%であった。各校種の割合については、昨年度とほぼ同様である。

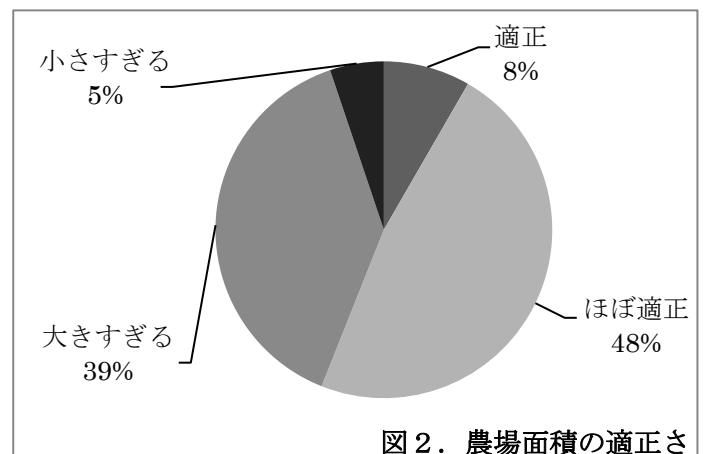


### II 農場基盤整備に関すること

農場基盤整備とは、農道、圃場区画、圃場の排水、土壌改良、農場全体の排水路、灌漑設備等、農場の基盤を整備しようとするものである。

#### 1 今の学校の農場面積は、学科構成や生徒数に照らして適正ですか。

昨年度と比較して肯定的な回答がやや減少し（適正・ほぼ適正 59%→56%）、依然として見直しが必要な状況にある。



2 農場基盤の整備を必要としていますか。

「必要としている」が昨年度と比較してやや増加し(80%→83%)、依然として大きな課題となっている。

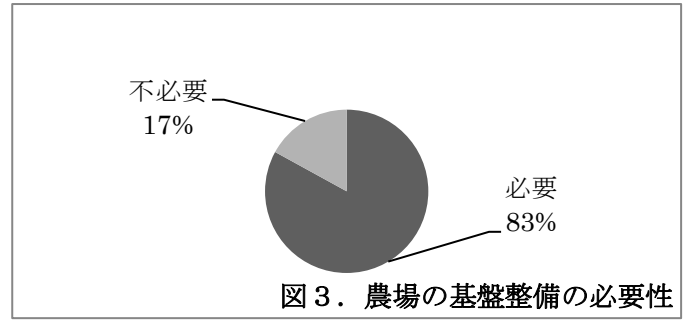


図3. 農場の基盤整備の必要性

3 2のア 必要としていると回答した場合はどのような整備を必要としているかお答えください。

必要となっているものについては、「ア：圃場や農場の排水関係」が本年度の調査でも高い数値で推移しており、依然として課題となっている。「ウ 土壌・土質の改良」もそれに次いでいる。

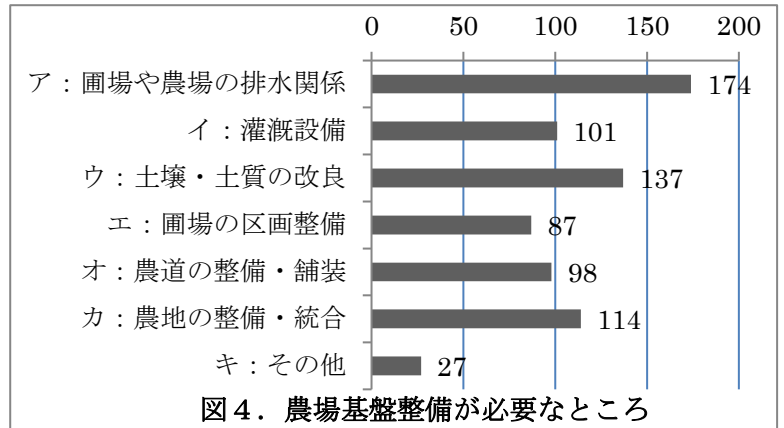
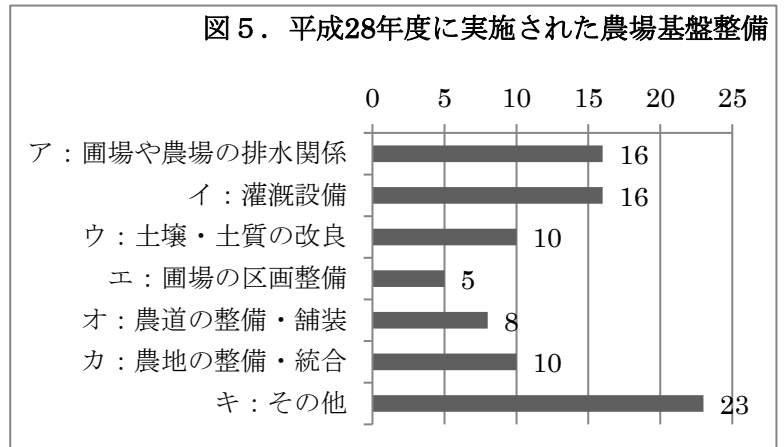


図4. 農場基盤整備が必要なところ

4 貴校で、平成28年度に実施された農場基盤整備に関する事業がありましたらお答えください。(複数可)



III 施設・設備の整備に関すること(※施設・設備には、施設・設備に備えられる備品を含むこととする。)

1 貴校で農業教育に関する施設・設備は、十分に整備されていますか。

昨年度と比較して「ウ：かなり不十分である」「エ：やや不十分である」がやや増加し(85%→87%)、依然として改善が進んでいない状況にある。

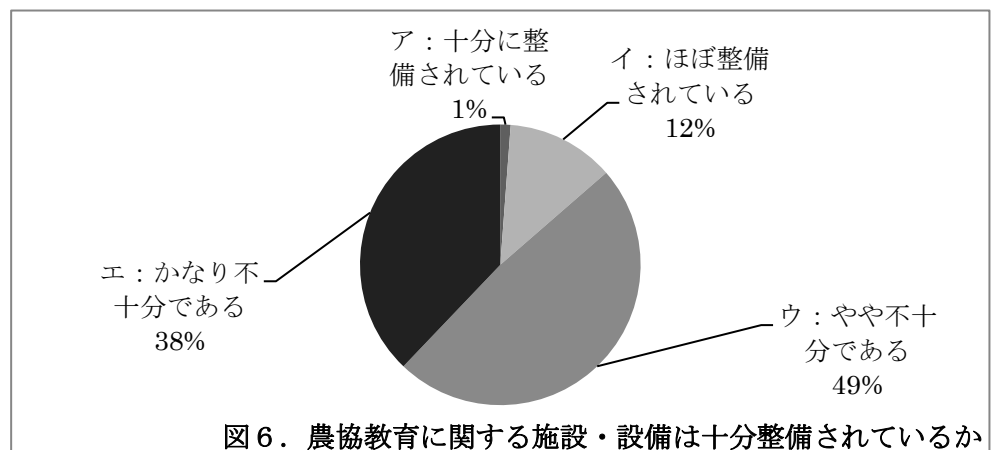
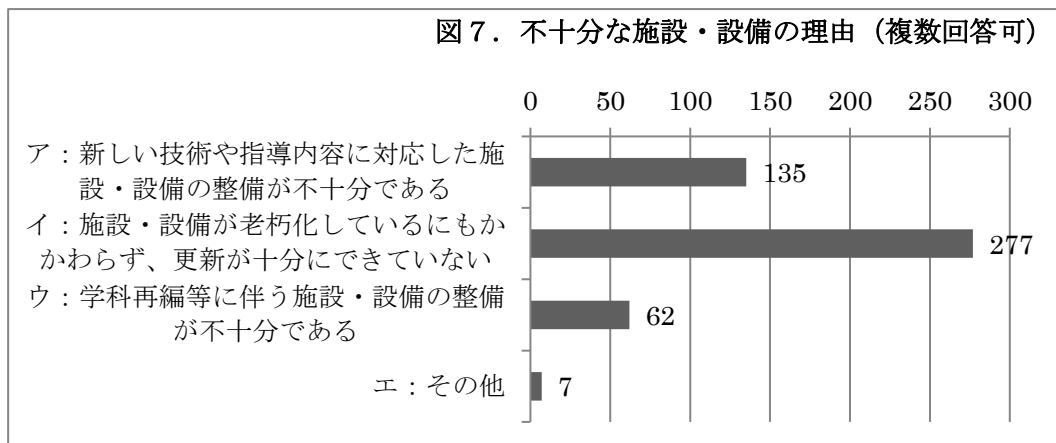


図6. 農協教育に関する施設・設備は十分整備されているか

2 施設・設備の整備が不十分であると回答した場合（ウ・エと回答をした場合）の理由を、次のうちから選んでください。該当項目が複数ある場合はすべて選んでください。

昨年度に比べ、「イ：施設・設備が老朽化しているにもかかわらず、更新が十分にできていない」「ア：新しい技術や指導内容に対応した施設・設備の整備が不十分である」が増加しており、技術革新への対応が求められている。



3 施設・設備の整備が不十分であると回答した場合（ウ・エと回答をした場合）、整備計画がありますか。

（参考）

農業高校における教育環境整備状況調査結果（抜粋）

平成28年3月

文部科学省初等中等教育局  
児童生徒課産業教育振興室

1. 農業高校における産業教育施設・設備の整備について

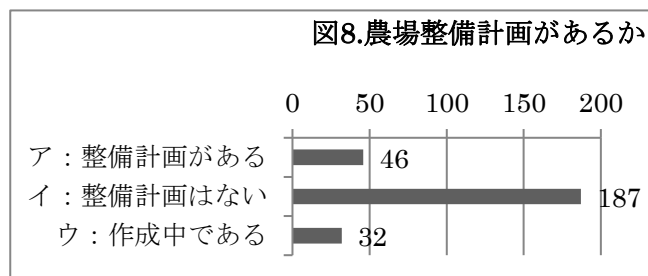
（1）教育委員会としての整備計画の有無

（ア）整備計画がある都道府県 11（岩手県、秋田県、神奈川県、石川県、岐阜県、三重県、兵庫県、熊本県、大分県、宮崎県、沖縄県）

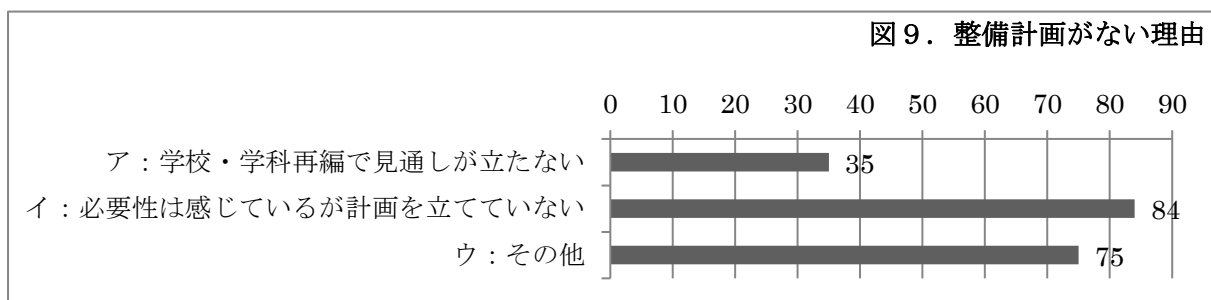
（イ）整備計画がない都道府県 36

※（イ）には農業高校を含む県立学校全体としての計画がある場合等を含む

「イ：整備計画はない」が大半ではあるが昨年度と比べやや減少し（191→187）、「ア：整備計画がある」がやや増加（41→46）している。



4 3のイ 整備計画はないと回答した場合、その理由をお答えください。



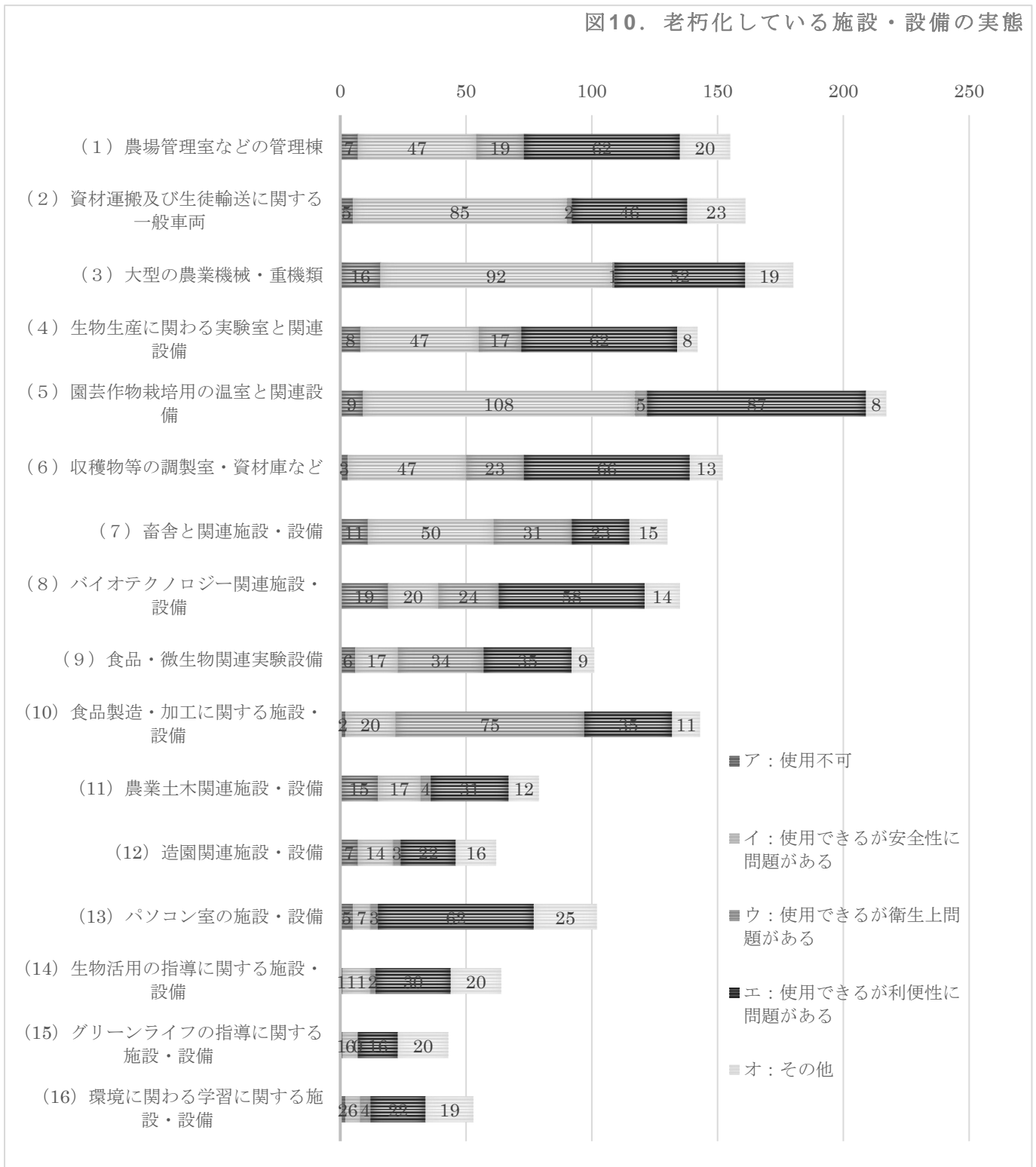
5 2のアに回答した場合、新しい技術や指導内容に対応した施設としてどのようなものを考えているか、具体例を一つあげてください。

6次産業化に関する研究活動に必要な食品加工施設、環境を学ぶための設備、IT農業に必要な設備、自動環境制御温室、省エネに配慮した次世代施設、生物活用の実習用教室、HACCPに対応した食品加工施設、水耕栽培施設、高性能林業機械、GAPに対応した施設設備、食品加工施設の空調、食品科学科の分析・実験室、イチゴ採苗・栽培施設、バイオ実験室、畜産加工施設、野菜工場、パソコン室、堆肥製造装置、（傍線は複数の希望のあった施設）

6 **2のイ**に回答した場合、下記の施設・設備で老朽化しているものについて、具体的にどのような状態か、また取得した年代はいつかを下記の記号でご記入ください。

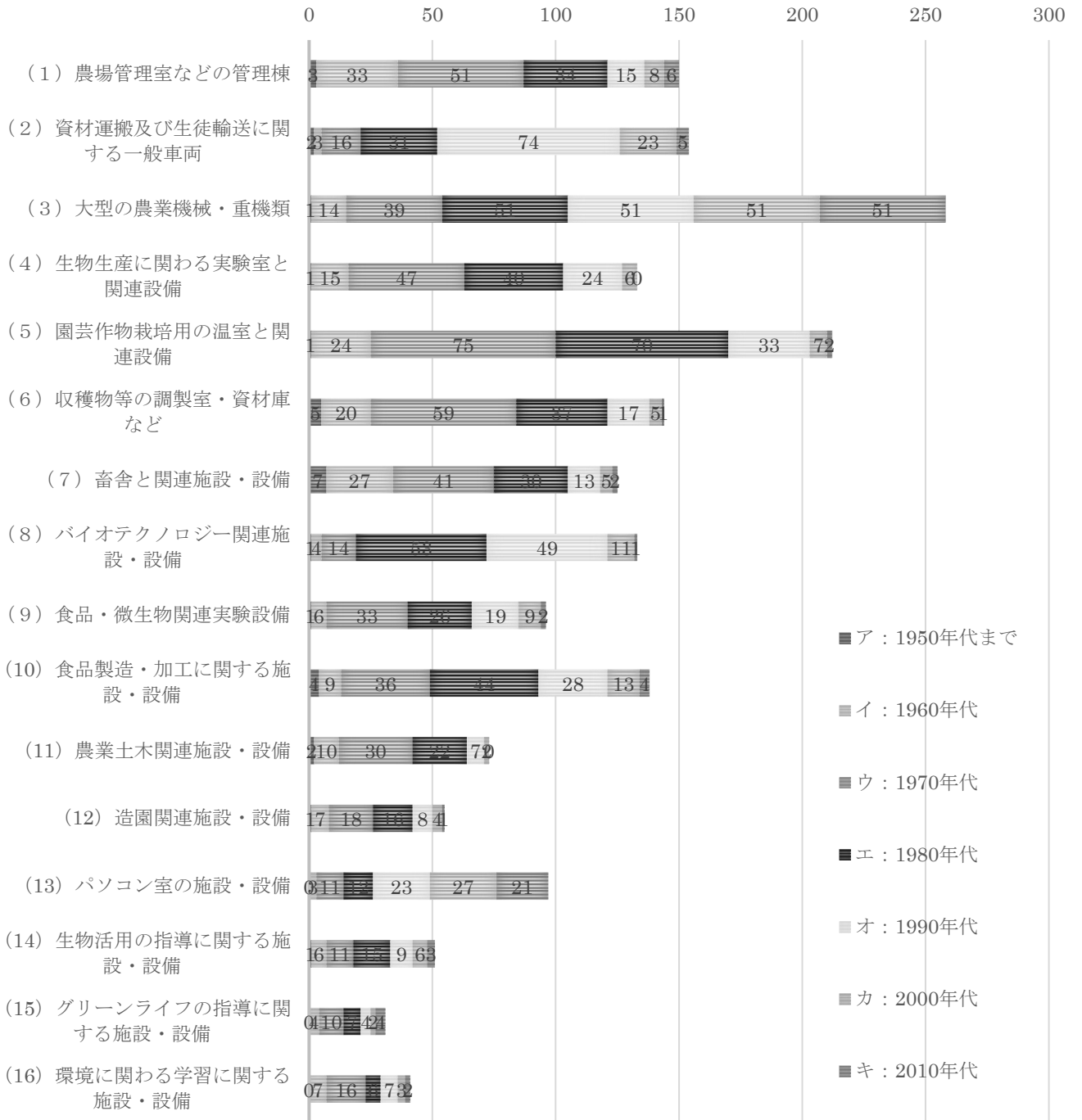
※「取得した年代」とは、現在使用している施設・設備が学校に設置及び導入された年代です。大型農業機械など該当物品が複数ある場合は、現在使用中のもので最も古い物品の取得した年代をご記入ください。

図10. 老朽化している施設・設備の実態



老朽化している施設・設備として最も多く挙げられているのが「(5) 園芸作物栽培用の温室と関連設備」であり、次いで「(3) 大型の農業機械・重機類」「(2) 資材運搬及び生徒輸送に関する一般車両」「(2) 資材運搬及び生徒輸送に関する一般車両」「(10) 食品製造・加工に関する施設・設備」である。そのうち「現在使用できるが安全上問題がある」「現在使用できるが衛生上問題がある」という回答が大半を占めている。

図11. 老朽化している施設・設備の取得年代

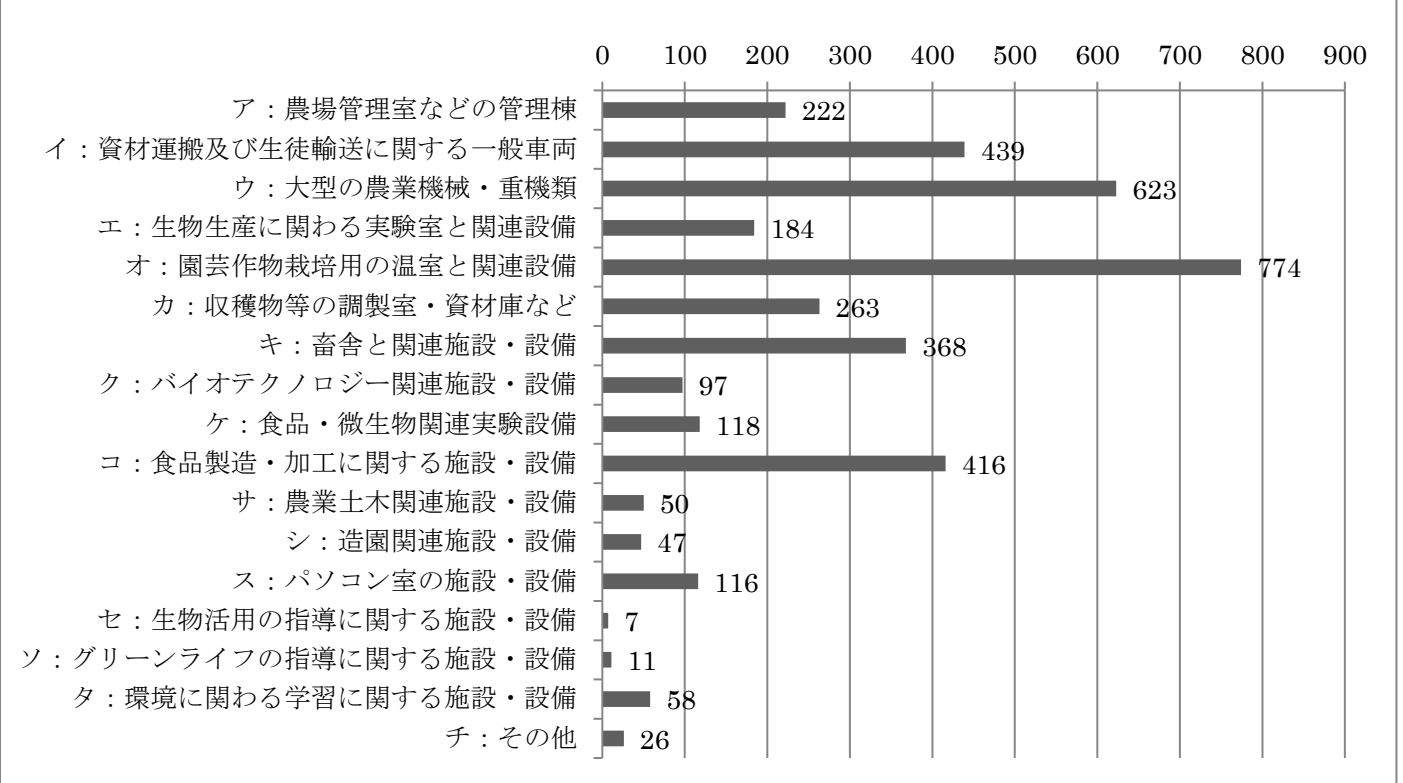


今年度初めて、老朽化している施設・設備の取得年代についてのアンケート調査を行った。これを見ると、驚くことに今から60年以上前の1950年代に取得した老朽施設・設備を使用している事例が、畜舎や収穫調整室、食品製造施設などで散見される。さすがに大型農業機械・重機類は、老朽機械を併用しながら少しずつ更新が進んでいる。しかし農場管理室や上記の収穫調整室、畜舎などでは、回答の大半が今から40年以上前の1970年代以前の取得である。園芸温室も半数近くが1970年代以前の取得で、現在も主力で活躍中である。

この調査結果からみても、高等学校農場における最新の施設設備の導入・更新が、全国的に著しく遅れているのは明らかである。その中で農業教員は、地域の農家にすら全く見られなくなった老朽化した施設設備を修繕維持しながら農場生産を上げ、かつ新しい時代の農業教育への対応に大変苦勞している様子が見てとれる。

7 貴校で現在、整備や更新を考えている施設・設備を次のうちから選び、優先順に5つ以内でお答えください。

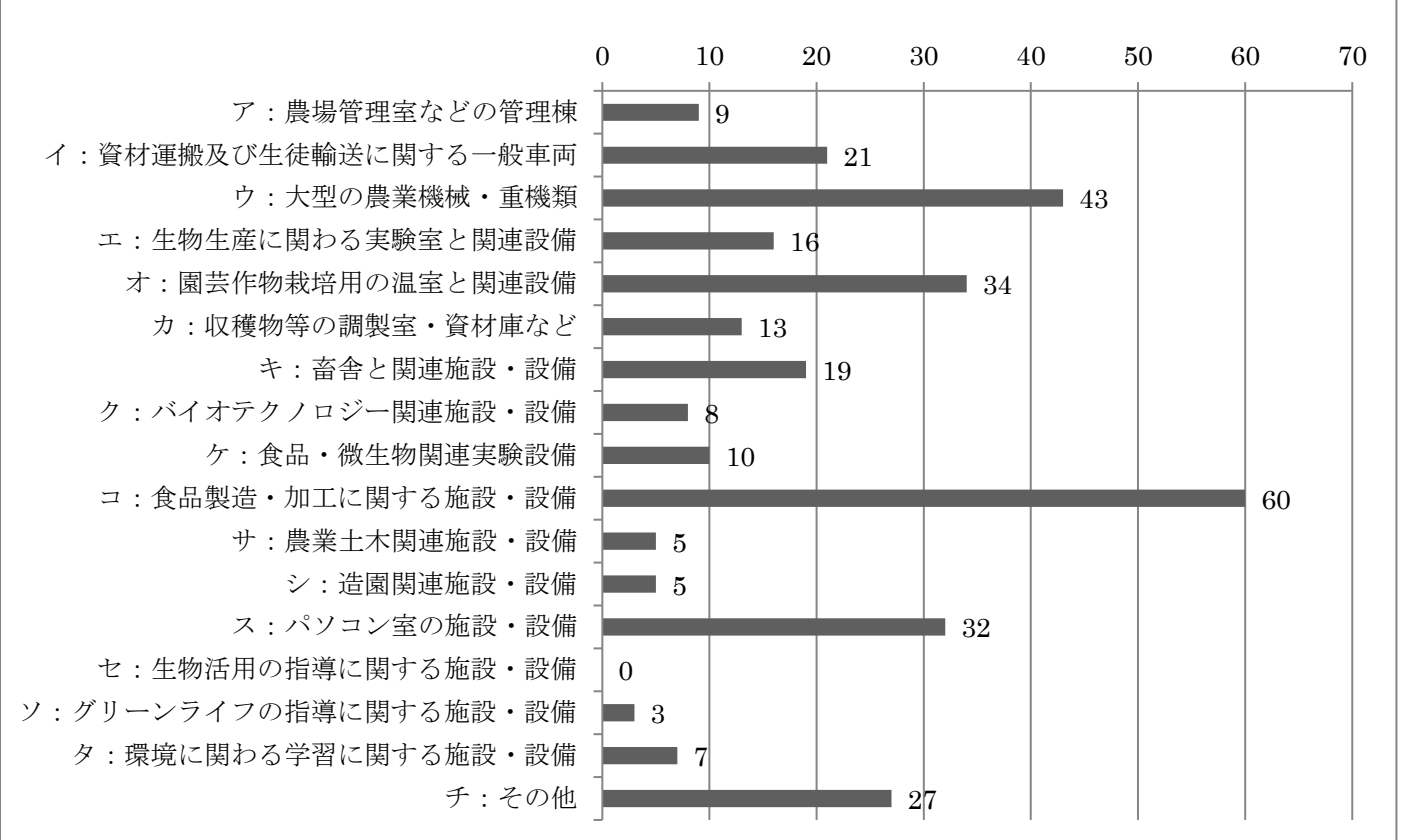
図12. 各校で整備や更新を検討している施設・設備



「各校で整備や更新を検討している施設・設備」では、優先順位順に5段階のポイントを乗じ（1位には5、2位には4、3位には3、4位には2、5位には1）その優先順位を反映させて集計した。「オ：園芸作物栽培用の温室と関連設備」、「ウ：大型の農業機械・重機類」、「イ：資材運搬及び生徒輸送に関する一般車両」「コ：食品製造・加工に関する施設・設備」などが、優先度が高くなり、昨年度とほぼ同様の順位となっている。

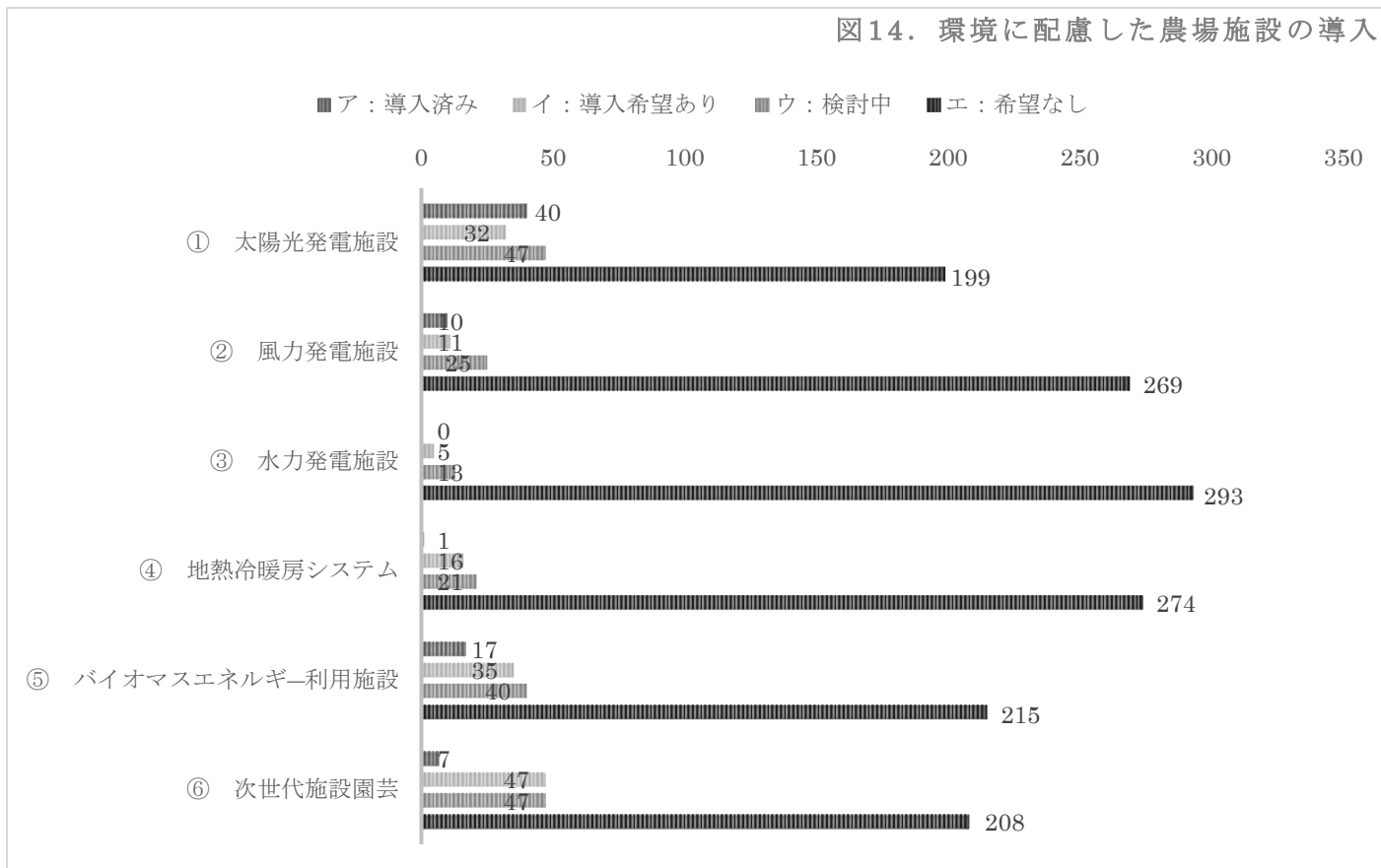
8 貴校で平成28年度に整備された主な施設・設備（備品）を下のア～チから選び、お答えください。（複数可）

図13. 平成28年度に整備された主な施設・設備（備品）



9 貴校で、環境に配慮した農場施設の導入について、下記から選んで記号を記入して下さい。

図14. 環境に配慮した農場施設の導入



4 最後に

最後に、全国の各農場代表の皆様におかれましては大変お忙しいなか多大なるご協力を賜りまして、大変ありがとうございました。農業学科設置校が僅かながらも減少傾向にあるなかで年々回答校数も増えており、おかげさまでより精度の高い農場基盤及び施設・設備の整備に関する基礎資料を得ることができました。

お預かりしたデータを分析し、今後の要望につなげていきたいと思っております。あわせて、本調査が少しでも各都道府県の予算獲得のお役に立てることを願いつつ、皆様の御多忙中の御協力に重ねて御礼申し上げます。